

サンパウロ大学への協定留学（交換留学） 月例報告書（3月分）

留学先大学：サンパウロ大学

氏名：深町彰真

【はじめに】

こんにちは、ブラジル・サンパウロ大学に留学をしている静岡文化芸術大学 文化政策学科3年 深町彰真です。約27時間（トランジットを含む）のフライトを終え3月13日にサンパウロに到着しました。そこから半月が経った現在ですが、その間で感じたことについて、拙い文章ですがこの場を借りて報告させていただきます。

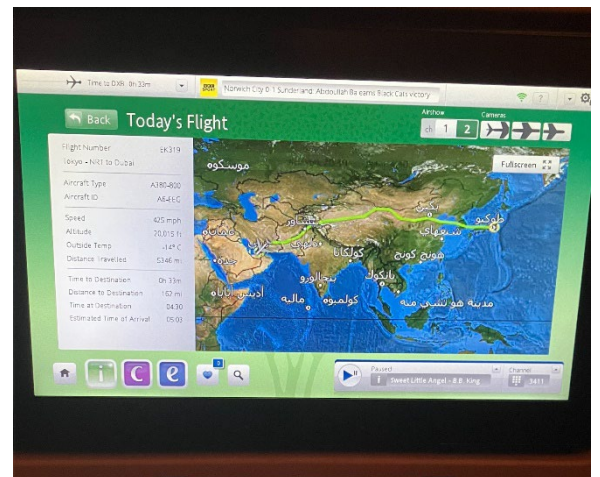
【留学準備】

これは私見ですが、留学は日本にいる準備段階から始まっていて、出発までに準備を整えられるかが、到着後の生活に影響するのだと、この半月を過ごして実感しました。というのも、私はこの準備が間に合わず到着後1週間は、なかなか心の折れる経験をしたので、ここに残しておきます。ブラジルに留学を考えている人は参考までに…。

※文字が多いので【ブラジルでの日常生活】までスキップしてもらっても構いません。

私は出発前に最低でも以下のことを準備する必要がありました。

- ① パスポートの更新
- ② 航空券手配
- ③ ビザの取得
- ④ CPF（国民納税者番号）の取得
- ⑤ 荷造り
- ⑥ クレジット/デビット/プリペイドカードの手配
- ⑦ 携帯電話
- ⑧ 語学力
- ⑨ 居住先の手配



上記の①、②、③は4か月程度、準備に時間がかかりました。それもパスポート更新に2週間、航空券手配に2週間、ビザに関しては発給の際に成績証明書、在籍証明書、戸籍翻訳、警察関係書類等それぞれに時間がかかり、4か月かかりました。また、私の本籍地は群馬県なので警察関係は大変でした。④のCPFとはブラジル版マイナンバーのようなものでブラジルでのオンライン上の行政手続き、オンラインショッピング、携帯のSIMカードの登録等で必要になります。ブラジル現地で申請から取得まで行うのは手間取るので、出発前にブラジル領事館で取得するのが1番スムーズです。上記の中で最も苦労したのは⑨居住先の

手配です。間違いなく。サンパウロ大学からは学生寮や大学提携の住居などは提供されない
ので、1 から探す必要がありました。4 か月前くらいから Facebook のグループや Web のブ
ラジルの不動産屋から居住先を探していましたが、大学へのアクセス、家賃、治安、共用部、
大家さんなどを気にしながらの物件探しは非常に苦労しました。家賃が極端に安い場所は
比較的治安、衛生環境、ネット環境が悪い。住居はワンルームマンションのように自分の部
屋にトイレ風呂、キッチンが備わっているものもあれば、種類によっては水回りのものが他
の部屋の人と共用になっているタイプの住居もあります。私は神経質でも潔癖でもないの
で共用部はあまり気にしませんでした。(※共用部の別の問題として、友人いわく洗濯物を
共用部に干していたら住人に盗られたことがあると言っていたので、気を付けたほうがい
いかもしれません。私はブラジルでは「ほしけりゃくれてやる精神」で生活しているのでい
くらでも私物は盗まれる覚悟でいます。) また、アパートの仲介業者や管理担当者とはポル
トガル語でコミュニケーションをする必要があることや時差を考えないといけないことな
どが大変でした。私は Facebook で見つけたアパートの人と連絡を取り、到着したその足で
アパートに行きました。しかしその部屋は Facebook で見せられたものとはまるで違う雨ざ
らしのスカスカ部屋でした。到着してすぐに休めると思っていましたが、**到着後すぐにホーム**
レスになってしまいました。家が見つかるまでの最初の 1 週間は先輩の助けを借りたり、
Airbnb (民宿のようなもの) に泊まったりとギリギリで生活していました。この時は独りブ
ラジルに放り出されたような感覚でとても不安でした。

1 週間ひたすらいろんなブラジル人に連絡を取り、結局私は、「三重県人会」という日系
ブラジル人の方が運営する文化会館の一室を借り、月 700 レアル (約 21,000 円) で住まわ
せてもらえることになりました。大学からは少し遠いですが地下鉄から徒歩 2 分、治安も
良く、スーパーも近い住みやすいところです。なかなか一般のアパートを賃貸するのはハー
ドルが高めなので友人づてのシェアハウスや日系の〇〇県人会をおすすめします。(ちなみ
にサンパウロには 47 都道府県すべての県人会があります。私は静岡県、群馬県に縁があり
ますが部屋が満室で住めませんでした。三重県人会の人には三重に縁のないふかまちを快
く迎え入れてくれたこと、本当に感謝しています。)

そうしてブラジル生活が始まりました。

【ブラジルでの日常生活】

ブラジルでは毎日驚くことばかりです。まず、食生活について、ブラジルでは家庭料理と
してフェイジョンと呼ばれる豆の煮込みをほぼ毎日食べます。豆と米をナイフとフォーク

だけで食べることに初めは慣れず、苦労しましたが、今では問題なく扱えるようになりました。お米も粘りと弾力がある日本米ではなく、タイ米なので若干パサパサしたような食感をしています。毎日食べていて飽きそうに思えますが「今のところ」は大丈夫です。

ブラジルの物価は野菜やフルーツは日本より安く 120~240 円/1 kg くらいですが、他の商品は日本と同等か少し高いくらいです。ブラジルの給与水準を考慮するとブラジルの人からはポテチ 1 袋も 300 円くらいのように感じるのだと思います。ブラジルのスーパーはフルーツの種類が豊富で日本でも見るフルーツからスターフルーツのような南国ならではのフルーツまで揃っており、異国感が漂います。バナナひとつとっても

Banana nanica(バナナ・ナニカ)

Banana prata(バナナ・ブラッタ)

Banana maca(バナナ・マッサン)

Banana ouro(バナナ・オウロ)

と多様な種類のバナナが売られており調理用途や食べ方に合わせて買っています。



※ブラジルのスーパーは日本のスーパーのように店員のおもてなし精神があるという感じではなく、めちゃくちゃ大きな声で雑談しますし、マイペースです。レジの人もレジ打ちしながら井戸端会議をしているなどと「割り当てられた仕事をこなすが、その勤務態度は自由」というようなブラジルの働き方が垣間見えました。

【私が感じたブラジル人】

- ・世話焼き
- ・おしゃべり
- ・パーティー好き
- ・音楽好き

大学の友人や街中のブラジルの方と話して感じたのは、以上の通りです。

ブラジルの人は世話焼きが多くて、私が家がなくて困っていた時には知り合いという知り合いに連絡を取って物件情報を知らせてくれたり、大学の書類関係を手伝ってくれたり、市内でのイベント情報を共有してくれたりとブラジルの



方の温かい性格を感じる場面は多くありました。そしてブラジルの人はとてもおしゃべりです。ずっと喋っています。絶え間なく。私が「Qual o seu hobby?」（趣味は何なの？）みたいに聞くとずーっと返答がきます。1聞くと100返ってくるみたいな。また、それが理由からかブラジルの人はどこでも通話をしているし、メッセージのやり取りは文字で送るという方法に加え、ボイスメッセージで送るという方法もメジャーです。私もブラジルの人とやり取りしている際にボイスメッセージを受け取るのですが、私にとってはリスニングの練習問題のような感覚です…。

次にブラジルの週末はパーティで賑やかになります。ビルの屋上ではシュラスコをし、爆音で音楽を流し、ウェイウェイしている様子をよく目にします。大学でも毎週金曜日にフェスタがあり、音楽、踊り、お酒、〇〇を楽しんでいるそうです。コミュニケーション大好き人間が集まるブラジルでは週末にパーティやフェスタが楽しめるのは必然なのかもしれません。

【終わりに】

上手くまとまりませんでした。他にもサンパウロの公共交通機関システム、大学、ブラジルの都会と田舎、若者文化についてこの半月だけでも学んだことが沢山あったので、次回の報告書にしっかりとまとめたいと思います。

この報告書を書いている今現在は、大学が1週間お休みなためサンパウロを離れ北東に70 kmのアチバイアという田舎で農作業の手伝いをしながら勉強をしています。サンパウロは大都会で、お金さえあれば日本にいるのと遜色ない生活を送ることが可能です。しかし、田舎まで足を運ぶとサンパウロ市内では感じられない不便さ、課題を見つけることができます。

次回予告

- ・南半球最高峰の大学「サンパウロ大学」で勉強してみた
- ・ブラジルのビールは60円!?
- ・公共交通機関情報～30秒間隔で来る地下鉄～
- ・幽霊が出る…アチバイアの大規模農園と奴隷部屋
- ・強盗犯罪率が日本の420倍! そんなブラジルでのふかまの防犯対策